

再生可能
エネルギー事業における
中間支援と認証制度

2023

11/25 土 13:00-16:30

参加費無料 / ハイブリッド開催

一橋講堂(1階)特別会議室 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

地下鉄半蔵門線・都営三田線・都営新宿線 神保町駅(A8・A9 出口)徒歩4分
地下鉄東西線 竹橋駅(1b出口)徒歩4分

お申込み期限

11月20日(月)

先着(会場60名・オンライン150名)

お申込方法

参加ご希望の方は、<https://forms.gle/RQujtBcgGMmuTw7N7>あるいは、下記QRコードからアクセスし、必要事項をご記入ください。後日、事務局より参加方法の案内を送付いたします。

※Zoom接続はご自身のパソコン、通信環境でお願いいたします。Zoom接続のサポートはいたしかねます。また通信料は参加者負担となりますのでご注意ください。



お問い合わせ先

名古屋大学大学院環境学研究科 本巢 芽美

✉ motosu.memi.u8@f.mail.nagoya-u.ac.jp



開催趣旨

気候変動や資源枯渇といった持続可能性にかかわる問題意識を背景に、脱炭素に向けた動きが加速しています。一方で、再生可能エネルギー導入の意義のひとつとしてあげられてきた「地域自立への貢献」という側面についての課題も指摘されています。再生可能エネルギーは地域での受容性が普及の鍵になりますが、リスクのみが目されるような例も少なく、条例も含めた規制的対応も増えています。その結果、再生可能エネルギーの導入量は伸び悩んでおり、脱炭素の実現が危ぶまれる状況にもあります。

こうした状況を踏まえ、本ワークショップでは地域課題の解決や持続的発展につながるように再生可能エネルギー事業のあり方を再定義し、自然保護も含めた多様な波及効果を通じて立地地域に資する条件を示します。また、これを促す中間支援のあり方や、認証の仕組みを活用し、市場の仕組みを通じて問題解決に結びつける方策を提言します。

プログラム

開会挨拶 日本生命財団・理事長 林 武史

趣旨説明 名古屋大学大学院環境学研究科・教授 丸山 康司

第1部 よい再エネを定義する ■ 13:15-14:00 ■

「再エネの地域経済効果を高める方法」 一橋大学経済学研究科・准教授 山下 英俊

「地域社会とのシナジーを生む再エネ」 早稲田大学文学学術院・教授 西城戸 誠

「生物多様性に貢献する太陽光・風力」 ISEP・主任研究員 山下 紀明

第2部 よい再エネを進める仕組み ■ 14:00-15:15 ■

「ドイツの中間支援組織」 ISEP・研究員 古屋 将太

「風力発電におけるリスクコミュニケーションとその仲介」
名古屋大学大学院環境学研究科・博士課程 平 春来里

「国際資源管理認証を利用した主体間ネットワーク」 鳥取大学地域学部・准教授 大元 鈴子

「ドイツのフェアウィンド認証」 名古屋大学大学院環境学研究科・博士課程 Christian Doedt

「地域と調和した太陽光発電事業に関する条例と認証」
千葉商科大学基盤教育機構・准教授 田中 信一郎

—— 休憩 ——

総合討論 コメンテーター

- ・一般社団法人ローカルグッド創成支援機構・事務局長 稲垣 憲治
- ・パワーシフト・キャンペーン・事務局長 吉田 明子
- ・環境省大臣官房地域政策課・政策企画官 三田 裕信

閉会挨拶 名古屋大学大学院環境学研究科・教授 丸山 康司

